令和４年度岩手県林業技術センター試験研究評価実施結果

１　目的

(1)　試験研究の効果的・効率的な推進を図るため試験研究評価を実施する。

試験研究課題の選定から試験研究終了後の成果の普及に至るプロセスに関し、適切な評価を実施することにより、効果的・効率的な試験研究の推進を図る。

(2)　評価等の客観性・透明性を確保するため、県の組織に属さない外部有識者等を評価委員とする外部評価を実施する。

２　外部評価委員会の開催日時等

(1)　日時　令和４年 10 月７日（金）13：30～16：30

(2)　場所　岩手県林業技術センター　研修宿泊棟ホール

３　評価委員

岩手県林業技術センター所長が選任する。

所　　属　　等	氏　　名
国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所　東北支所長	山中　高史
国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所　林木育種センター　東北育種場長	三重野　信
岩手県立大学　研究・地域連携本部　地域連携コーディネーター	渋谷　晃太郎
奥州地方森林組合代表理事組合長	小原　剛一郎
岩手県木材青壮年協議会会長	中川原　壮一
岩手建築士会	上田　吹黄

４　研究課題に対する総括評価結果

課　　題　　名		総括評価（※）	総括評価に関する主なコメント
広葉樹資源高付加価値化に向けた技術開発	終了	Ａ：５ Ｂ：１ Ｃ：０	・県内に豊富な広葉樹資源活用のために重要な研究 ・高付加価値化に向けた技術開発は重要課題
原木シイタケの高収益栽培技術の開発	継続	Ａ：４ Ｂ：２ Ｃ：０ Ｄ：０	・寒冷地に適したシイタケ栽培技術の確立は緊急性が高い。 ・原木シイタケ生産現場の問題解決に大きく寄与する。
原木シイタケ安全安心栽培技術の開発	継続	Ａ：６ Ｂ：０ Ｃ：０ Ｄ：０	・シイタケ原木の安全性の確立は重要かつ緊急 ・他機関の先行事例を調査すべき ・重要な課題であり、継続的に取り組む必要がある。
人工林アカマツ材の集成材利用技術の開発	新規	Ａ：５ Ｂ：１ Ｃ：０	・重要な課題であり、新たに取り組む必要がある。 ・他機関の先行事例を調査すべき

※　総括評価　【終了課題】Ａ：目的を達成
Ｂ：目的をほぼ達成
Ｃ：目的を未達成

【新規課題】Ａ：優先的に実施
Ｂ：早期に実施
Ｃ：計画見直し等

【継続課題】Ａ：十分な成果が期待、優先的に取組む必要
Ｂ：一定の成果が期待、継続して取組む
Ｃ：見通しに問題、計画再考
Ｄ：中止